

# 令和5年度 園の自己評価および学校関係者評価

ひしのみこども園では、教職員と保護者のみなさんに、「ひしのみこども園の教育と保育及び運営」について、アンケート調査を行い、それに基づいて、園の自己評価を行いました。また、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、部外者評価を実施しました。

この貴重な結果を大事にして、令和6年度に臨みたいと思います。

令和6年3月 ひしのみこども園 園長 今 泉 弘

## 1. 園の保育と教育の目標

「子ども一人ひとりの主体的、創造的活動を促すとともに集団生活をとおして、思いやりの心や社会性を身につけさせ、生きる力の基礎を培う」

## 2. 求める子どもの姿

優しく	賢く	逞しく
<ul style="list-style-type: none"> <li>感性豊かな子</li> <li>協同して遊び互いに尊重する子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造性豊かな子</li> <li>知的好奇心に満ちた子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで運動する子</li> <li>食事を楽しむことができる子</li> </ul>

## 3. 保育と教育の方針

- 子どもが進んで身体を動かして遊びを楽しむような環境づくりをする。
- 遊びの中で芽生える疑問や知的好奇心、文字や数量に対する関心などの、知的発達を促す場づくりをする。
- 保護者と連携し、日常生活における基本的な生活習慣が身につくように努める。
- 園内外における自然体験や社会体験を通して、豊かな感性や表現力を育てる。
- 野菜の栽培や生き物の飼育を通して、生命の神秘にふれさせ、また自然の恵みに感謝する気持ちをもたせる。
- 意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、給食との関連を図り、楽しさと同時に食事のマナーを身に付けさせる。
- 園の内外における園児の安全と安心の確保のために細心の配慮を心がける。
- 身近なエコ活動を通して、身の回りの自然や生活への関心を深める。

## 4. 評価

自己評価の基準		関係者評価の基準			
A 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、90以上 B 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70以上 C 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70未満		A 園の自己評価を納得できる B 園の自己評価を大体納得できる C 園の自己評価をあまり納得できない D 園の自己評価を納得できない			
領域	評価の観点	自己評価		関係者評価	
運営の体制	1. 教育・保育の充実	A	行事や遊びを通して、子ども一人一人の成長を感じることができた。コロナ禍の中、職員は、指導の工夫に努め、その成果を保護者に理解していただいた。	A	・コロナ禍でもよく工夫されている。 ・園の評価に納得できます。
	2. 施設・設備の活用	A	様々な感染症予防をしながら、雨天時でもホールで元気いっぱい遊ぶなど、施設・設備の有効利用できた。未満児については活動の様子が分かるよう連絡ノートを活用したい。	A	園の評価に納得できます。
	3. 危機管理・安全管理	A	毎月の様々な避難訓練や、定期的な安全点検及び日々の連絡会の申し送りにより、危機管理意識が高まり、安全教育の充実を図ることができた。	A	・評価に基づき実施できている。 ・園の評価に納得できます。

	4. 信頼・連携	A	感染症等の感染予防対策をとりつつ、安心して相談できるような体制・環境作りに努め、保護者との信頼関係はできていると思う。特に以上児については連絡ノートの活用を促したい。	A	・細やかな手立てをとって関係づくりができています。 ・園の評価に納得できます。
日 々 の 保 育	1. 道徳性の涵養	A	日常の保育の場面や、絵本や紙芝居等を利用しながら、場面に応じた指導を行ってきた。結果から保護者からの信任は受けているが、特に未満児については、その状況をどのように保護者に伝えていくかが大きな課題と考えている。	A	・評価が難しい面がある。 ・園の評価に納得できます。
	2. 生活習慣の育成	A	保護者との情報交換を密に行うことができた。今後も連絡ノート等の活用や新たな情報発信にも尽力していきたい。	A	・保護者との連携が大切ですね。 ・園の評価に納得できます。
	3. 健康・安全指導	A	個々の健康情報や感染症の情報提供、発育測定、健診の結果報告を通し、保護者との情報共有に努めた。	A	・安全安心が最優先。これからも職員の共通認識を大切にしてください。 ・園の評価に納得できます。
	4. 遊びを通じた指導	A	今後も一人一人の発達に応じた関わりを通し、興味関心・意欲を引き出し、幼児期に必要な体験ができるよう努めていく。	A	・園の評価に納得できます。 ・これからも遊びを通して人との関わり方を学ぶようにしてください。
	5. 幼小の接続	A	中央校と幼保小連携会議、1年生との交流会、担任との情報交換会を行ってきた。子どもたちは期待と安心感をもち、小学校への就学ができるものと考えている。	A	・わくわく交流ができて良かった。 ・園の評価に納得できます。
地 域 と の 連 携	1. 身近な人々との かかわり	感染症対策の一環として、地域の方との交流はできない行事があった。(評価対象外)			
	2. 食育の推進	A	給食室便り、ホームページを通し、食育について、また季節の食材(旬の野菜)の活用など保護者への広報を充実した。今後も、家庭と密に連携しながら取り組んでいきたい。	A	・園の評価に納得できます。
	3. 生命の大切さに気付く 環境作り	A	昆虫や小動物の飼育、野菜や草花の栽培などの体験を通して、自然とのかかわりを大切にしてきた。その成果が結果として表れている。	A	園の評価に納得できます。
	4. 読書の大切さと啓発	A	毎日の読み聞かせで、絵本のおもしろさを引き出し、子どもが自分の世界を膨らませ、文字への興味にもつながっている。	A	園の評価に納得できます。
	5. 開かれたこども園	A	コロナ禍の中にも、保育参観や園主催の行事については、開催を前提に計画を進めた。また保護者参加の人数も1⇒3人と感染防止対策に努め、緩和してきた。保護者からは好評だった。なお、今後も日常の園生活や行事等の連絡は、こまめなメール配信に努めると共に、園のホームページ(ひしのみブログなど)を活用し、園生活や教育活動の周知に努めていく。	A	・HP等の活用、公開が進んでいる。 ・写真付きのHPが毎回子どもの様子が分かりやすく保護者の楽しみになっている。 ・園の評価に納得できます。

## 5. 関係者委員会のコメント

○まず、「保護者の評価」、「教職員の評価」を共に見た時、園・先生方は本当に子どもたちは勿論、保護者や行事、何気ない日常さえも大切に向き合ってくださっていると感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。保護者代表として関係者委員会に関われたことありがたく思います。しかし、評価を見ると中には園の努力が伝わっていない保護者さんがいらっしゃるようで残念でたまりません。目には見えず、形とない「信頼・連携」や「道徳性の涵養」などは本当に伝えることが難しいと思いますが、園と保護者の真ん中にある“子ども”たちは間違いなく「優しく・賢く・逞しく」育っています。そんな子どもたちが、園で安心して過ごしたり、園で体験したこと・見たこと・聴いたこと・歌った歌…家庭で園のことを話すことで保護者は園を信頼し、子どもを成長させてくださる園に感謝すると思います。子どもが大好きだという先生は、親も安心して大好きになり、信頼へとつながっていく…と私は思います。私はひしのみ先生、大好きです。

○教職員・保護者のこども園への評価が高く、素晴らしい限りです。特に教育・保育の充実、危機管理・安全教育については80点(%)以上がとても良いという評価でこども園の先生方のご尽力に頭打が下がると思います。今後とも園児のために指導・支援をしていただけたら幸いです。

○評価委員の先生方は、みんな“ひしのみ”に寄り添って考えてくださる方であることがとても良かったと思う。

○どの項目もほぼ指標達成の評価を得ており、目指す園運営・教育ができていると思います。

○評価の値が低いのは評価の内容(指標)の意味が理解できていない場合や言葉が難しく分かってもらえない場合もあります。できるだけ分かりやすい言葉で、具体例を示し、誰にでも分かってもらえるようにする必要があります。特に「信頼・連携」、「道徳性」などの評価は、心や気持ちの持ち方、行動等により判断するものなので、身近な例を挙げて示すようにしたら、と思います。

○写真付きの子どもたちの様子がわかるホームページが見られないのはもったいないので年度初めにホームページのお知らせ(写真も保存できることを知らせる)をお便りにしてもよいかと思います。

○年々の園児数の減少が気になります…。多久市唯一の“幼稚園”だったひしのみ幼稚園のなごりを生かし、幼稚園ベースのこども園という事を他園との違いにして胸を張ってほしいです。年長さんの運動会バルーンやわくわくの会オペレッタ・音楽会はまるで1年生のようで本当にレベルが高いと思うので、入園を待っている方に見せたいほどです！！

○個人的ではありますが、今回評価委員として先生方や他委員の方と意見を交換することができうれしく思いました。学期ごとでもいいので“園長先生のおはなし会／意見交換会”があれば、他の保護者さんもじっくり話せて楽しく、風通しももっと良くなるのかなと思いました。

○総合評価としては今後とも高評価が出るようにご尽力いただけたら有り難いです。

○ほとんどの項目で「とてもそう思う」「ややそう思う」の回答となっており、高評価である。その中で課題をあげるとすれば「4 信頼・連携」の項目である。保護者回答にめずらしく「あまりそう思わない」があり、「とてもそう思う」も71%である。大切な項目だけに要因は探る必要があると思う。またこの項目は教職員評価では「とてもそう思う」が50%であることから、教職員には、何らかの心当たりがあるのかもしれない。次年度に向けてそれを出し合い、改善策を検討する必要があるだろう。また、日々の教育活動の2、3、4において次年度は「とてもそう思う」が80%を超えることが望ましいと思われるため、保護者への周知を図る方法を検討することも課題であると思う。

○「読書の大切さと啓発」の保護者(ご家庭)回答に、「まったくそう思わない」が少数もいるということ。「あまりそう思わない」も複数回答あるのは気になる。絵本を家庭でどう扱うかを伝える方法を考える必要があると思う。

○園の教育方針・運営方針実現に向けて、評価計画の作成、教育実践、年度末評価というサイクルで評価活動が進められている。

○評価計画の作成に当たっては、実態を踏まえて成果指標が設定され、それに基づいて日常の教育活動が実施されている。また、教育方針や評価指標の職員への周知が図られており、教育活動の改善が適切に行われ、十分な成果を上げていると評価する。

○年度末評価においては、観点ごとに実施されたアンケート、保護者からの自由記述等の客観的データを基に、評価結果が示されており、その評価結果を分析、考察し成果と課題が洗い出されている。今回の評価活動によって明らかになった成果と課題が、次年度の教育活動方針並びに具体的評価指標に生かされていくことを期待する。

○「危機管理・安全教育」の観点については、職員、保護者共に高い評価となっている。教育現場における安全・安心は、最優先事項であり、この観点で高い評価を受けていることは、全職員にその大切さが周知され実践がなされていることがわかる。また、教育現場においては、常に新たな危機は生まれるものであり、その危機に対して細やかに対応し改善を図っていることが高い評価につながっていると思われる。

○「信頼・連携」の観点で、職員の評価が「とてもそう思う」「ややそう思う」が5割ずつの結果となっていた。教育は、教員と保護者との信頼の上に成り立つものであり、その信頼の大切さを職員が認識している結果だと受け止める。園の取り組みを聞かせていただき、職員が保護者との信頼を築こうと細やかに対応されていることがよく分かった。

学校では、とてもここまで丁寧な対応はできなにと感じる点が多々見られた。連携という視点で考えると、コロナ禍においては、連携を充実させることが難しかった。しかし、制約を求められたコロナ禍においても、連携を止めないための取り組みと努力を園が継続されていることが分かった。学校と比較すると、園においては、職員と保護者のより身近な関わりが求められているのだと感じる。「信頼・連携」の観点においては、職員・保護者相互のニーズを整理し、それにあった成果指標や取り組みを検討・確認されてはどうかと考える。

○以前、評価の低かった“食育”、“命の大切さ”、“開かれた園づくり”等が高評価になってきたのは全教職員の努力の結果だと感心しています。保護者の苦情もなく、子どもたちは楽しく、保護者は安心して預けられることも園として、来年度も皆で心一つにがんばってください。

「近き者よるこべば、遠き者来る」論語より

## 6. 総合評価と次年度への課題

昨年度までは新型コロナウイルス感染症対策のため、園行事や教育・保育活動に制限がありました。しかし、昨年5月8日より国が新型コロナウイルスの感染法上の分類を季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げました。そこで5月8日以降の園の行事は、感染症対策を行い、これまでコロナ禍で実施してきた行事の内容・方法の良い面を残しつつ、保護者の参観数の制限をなくし、実施してきました。保護者からはかなり好評で、“園の見える化”・開かれた園づくりとなりました。また、ホームページ(特にひしのみブログ)を活用し、園の教育・保育活動の啓発・周知にも努めました。

さらに日々の教育・保育活動も自発的な遊びを通した様々な体験を行う「子ども中心の教育・保育」を行い、子ども一人一人の成長や発達を促すことに努めて参りました。

自己評価アンケート結果では、今年度も昨年度同様、すべての項目(13項目)がA評価でした。(ただし、「身近な人々とのかかわり」は、感染症対策の一環として地域の方との交流ができませんでしたので評価対象から外しました。)

「食育の推進」は一昨年度より高評価をいただいています。これは実際の取組を給食室便り、ホームページ、ブログ等を通し、幅広く、広報に努めている成果と考えています。特に今年度はホームページを見られた佐賀県くらしの安全安心課(食育・計量担当)より、食育の取組(12月のもちつき会)の取材があり、さかの食育(facebookとInstagram)への記事掲載や食育ネットワークさが情報誌「生きる力」の食育活動での紹介をいただきました。さらには第17回佐賀県食育賞候補者の推薦を受けています。(結果は令和6年6月)県より本園の食育活動の取組が評価されたことは、今後の本園の特色として、さらに充実させ、周知していく必要があると思います。

関係者評価委員の方からは、保護者から本園の教育・保育活動は十分に信頼されていますが、学校評価について、どの年齢層にも内容(指標)が理解されるような工夫の必要性について、また評価段階4の「とてもそう思う」が昨年度より低くなった評価の観点の、分析と改善についてのご意見をいただきました。

研修では、全員研究保育及び研究協議を行うと共に、園外研修(オンデマンド、リモート、ズーム等含む)にも参加し、研鑽を深め、職員の資質向上を図りました。このことは本園の乳・幼児教育の質の向上に繋がっていると考えます。

これからも「やさしく、かしこく、たくましい」ひしのみの子どもの成長を願って、「情報発信」・「コミュニケーション」・「情報共有」をキーワードに様々な工夫を行い、課題解決と共にひしのみこども園の“教育・保育”の質の向上を図っていきたく思います。